

公益財団法人国際文化フォーラム

2017(平成 29)年度 事業計画書



公益財団法人国際文化フォーラム(TJF)にとって、2017年度は設立30周年記念の年です。記念事業の企画にあたっては、一過性のイベントに終わるものではなく、これまでの事業の課題を踏まえ、2018年度以降の事業の方向性を見据えたものになりました。

■好朋友日本文化体験の場づくり

第二外国語日本語教材『好朋友』は、学習者が文化を多面的にとらえられるよう、様々な文化体験を提唱しています。しかし、これらの体験を授業で実践するには実物教具が必要であり、中国にいながら体験する機会を充実させることが、大多数の日本語学習者むけには重要です。生徒たちが今の日本を体験し、日本語、日本文化への関心を高め、理解を深めることが、『好朋友』を使用した日本語授業の定着になると考え、『好朋友』を使った授業に長く取り組んでいる学校5校を拠点校として指定し、その学校内に日本文化を体験したり、理解を深めるための書籍や教具等を寄贈して、「好朋友日本文化体験の場」をつくることとしました。この場は、日本語を学習している生徒だけでなく、他の生徒や、周辺地域の教師、生徒も利用できるようにいたします。これまで、日本側主導で教師研修や招聘事業を実施してきましたが、今回の文化体験の場づくりを通して、現地在住の日本人や日本人留学生とのネットワークを作り、協力を得て、現地主導の日本語教育の発展をめざしてまいります。

■高校生向け「学校のソトで腕だめし」プロジェクト

TJFはこれまで、CMづくりワークショップなど、社会人が仕事を通して培ってきた知恵やスキルを、学校の授業や課外活動にあわせて参加実践型のプログラムにアレンジし、実施する事業を行ってきました。今後は、社会人やアーティストなどの専門性をいかした高校生向けの学びのプログラムの幅を少しずつ広げながら、学校を離れた場で開催することで、異なる学校の生徒たちが集まって活動できる場にしていきたいと考えています。

予測のつかない社会の変化をみすえて、正解のない課題に向き合う力が世界的に重視されるようになり、日本でも、社会とのつながりを意識しながら、探究的な学びや協働学習、アクティブラーニングなどに取り組む学校が急速に増えてきました。

そうした学びを授業で経験している高校生にとって、このプロジェクトは、学校の外に出て、はじめて出会う高校生たちといっしょにモノやことばをつかって、なんらかの作品を創りあげる機会となります。日頃の学びの成果を実践で試したり、さらに磨きをかけたりするような、学校と社会の間にある学びの場となることをめざしています。

具体的には、舞台衣装家やCMプランナーと協力して、2日から4日程度のプログラムをつくり、週末に東京で実施することを予定しています。

■多言語パフォーマンス合宿

これからの日本は、社会の構成員(シティズン)としてさまざまなことばや文化の背景を持っている人たちが増えていくことが予想されます。外国にルーツを持つ子どもたちは、外国生まれかどうか、親が日本人かどうかに関わらず、多言語・文化の狭間に生き、アイデンティティの問題に直面したり、学習や進路面で悩んだりすることが見受けられます。一方、日本に生まれ日本で育っている子どもたちの大多数は、多様なことばや文化に触れる機会が限られています。

この双方の子どもたちが3泊4日の合宿型のプログラムに参加し、演劇的手法を用いて、①参加者一人ひとりが、いま足元にある多言語・多文化社会に関心を向け、多様性を尊重するマインドを持つ、②コミュニケーションし、表現し、協働することで、多様性に富む仲間との絆を深め、共に何かを創りあげることに関心を持つ、ことをめざします。

設立 30 周年記念事業

- ・高校生向け「学校のソトで腕だめし」プロジェクト(ア-3)
- ・外国語学習におけるゲーミフィケーション活用の研究(ア-4)
- ・多言語パフォーマンス合宿(ア-5)
- ・「30年目からのTJF」勉強会(ア-6)
- ・30周年記念誌の制作(エ-2)
- ・30周年記念レセプションの実施(エ-3)

2017年度の事業一覧及び各事業計画概要

ア. 国内外の児童・青少年並びに教育関係者向けの研修、ワークショップ、セミナー、シンポジウム事業

1. 「外国語学習のめやす」活用の促進をめざしたワークショップの開催（定期事業）
2. 教師研修の実施（定期事業）
3. 生徒を対象とした、研修、ワークショップ、セミナーなどの実施（定期事業）
4. 隣語講座の開催（定期事業）
5. 多言語パフォーマンス合宿の実施（新規事業）
6. ネットワークの構築と情報収集（定期事業）

イ. ガイドライン・教材・視聴覚資料・授業案の開発や提供事業

1. 日本の文化と人びと紹介サイト「くりっくにっぽん」の運営（定期事業）
2. 「外国語学習のめやす」活用の促進をめざしたウェブサイトの運営（定期事業）
3. 『好朋友』使用校への教材・資料の提供
4. ネットワークの構築と情報収集（定期事業）

ウ. 互いのことばを学ぶ国内外の児童及び青少年並びに教育関係者の交流事業

1. 日韓・中高校生の交流プログラムの実施（定期事業）
2. 隣語教育に取り組む日韓の高等学校校長交流プログラムの実施（継続事業）
3. 日露教師・生徒交流プログラムの実施（継続事業）
4. ネットワークの構築と情報収集（定期事業）

エ. 広報事業

1. TJFの事業の広報（定期事業）
2. 30周年記念誌の制作
3. 30周年記念レセプションの実施

2017年度事業一覧

事業名	実施時期	実施場所	事業内容	関係機関/団体
公1 国内外の児童及び青少年を対象とした外国語教育、並びに多様な文化についての理解を促進するとともに、教育及び文化の交流を推進する事業 148,390,718円(内、公益目的事業共通費用 76,433,515円 ※)				
ア. 国内外の児童・青少年並びに教育関係者向けの研修、ワークショップ、セミナー、シンポジウム事業				19,680,300円
1	「外国語学習のめやす」 活用の促進をめざした ワークショップの開催 1,800,000円	①通年 ②7月 ①各地 ②神奈川	①マスターティーチャーが企画し、TJFが共催者としてサポートするウォーミングアップ研修を年間を通して実施する。継承言語としての日本語、韓国語と日本語のコラボによる交流学习分野等でマスターティーチャー企画によるウォーミングアップ研修を実施する予定。 ②ウォーミングアップ研修の効果を高めるために、マスターティーチャーのためのレベルアップ研修を実施する。	①共催:めやすマスターティーチャー
2	教師研修の実施 5,402,400円	通年 大阪、沖縄、北海道など	評価や教材研究、探究学習、プロジェクト学習などに関連するテーマで小中高校の教員を対象とした研修を行う。TJFが単独で開催するワークショップ等のほか、教育委員会に協力して自治体単位での研修も実施する。 また、外国語教育のなかで、コミュニケーション能力と同時に思考力や課題発見・解決力などの資質・能力の育成を、学校現場が抱える課題と現状も考慮した上で、具体的にどのように実現していけるのかを探るため、北海道でリーダー的役割を担っている外国語教員を対象とした小規模かつより専門性の高い研修を実施する。どのような研修内容が必要なのかという検討も参加教員とともに行い、研修実施後のフィードバックも得る。 研修の講師は、當作靖彦カリフォルニア大学サンディエゴ校教授をはじめとする言語教育の専門家のほか、教育工学やCMプランナーなどコミュニケーションデザインに携わる企業人などを予定している。	共催、協力:沖縄県教育委員会、豊中市教育委員会ほか

3	生徒を対象とした、 研修、ワークショップ、 セミナーなどの実施 2,741,500円	通年	東京ほか	<p>①TJFが自主企画として学校外で行うもの(「学校のソトで腕だめし」プロジェクト) 高校生向けの学校外の学びの場づくりと、社会人やアーティストなど多様な分野の専門家の知恵やスキルを高校生向けの学びの活動としてプログラム化する試みを同時に行う。 参加者は、異なる学校の高校生たちとモノやことばをつかって作品をつくりあげる過程を通じて、探究的、協働的な学びを体験する。自分自身や仲間と向き合うプロセスを経て、最終的には「観る人」を意識し、外に向かって表現していくことを重視する。 学校を離れた活動ではあるが、学校で探究学習、プロジェクト学習、アクティブラーニングなどを経験してきた生徒たちが、学校の外に出て、学んできたことを実践したり、さらに磨きをかけたりするような、学校と社会の中間の場として機能することもめざしたい。 舞台衣装家やCMプランナーなどと組んでプログラムを開発することを検討している。</p> <p>②学校活動にあわせ、学校で行うもの これまで実施してきたCMづくりワークショップを中心に、学校からの依頼があれば、授業や学校活動の内容にあわせてアレンジしたうえで実施する。</p>	
4	隣語講座の開催 1,902,100円	通年	東京ほか	<p>駐日韓国大使館韓国文化院との中高生のための韓国語講座(世宗学堂)の共催と拓殖大学第一高等学校での韓国語講座への協力、東京都総合学科教育研究会と共催で保護者や教師を主な対象とした講座を継続実施する。 また、2017年度は、隣語への関心を高めることを目的とした講座の実施を希望する機関(学校、公民館、国際交流協会等)が会場提供、講座希望者募集を担当し、TJFがカリキュラム作成支援、講師派遣を行う「隣語講座開設支援事業」を立ち上げ、講座の開設数、開設範囲などを拡大する。 また、外国語学習へのゲーミフィケーション活用の可能性について研究する。</p>	<p>共催:駐日韓国大使館韓国文化院 講座の開設を希望する機関 助成:漢語橋基金(中国語関連、申請中) 東京韓国教育院、神奈川韓国総合教育院(韓国語関連、申請予定)</p>
5	多言語パフォーマンス 合宿の実施 3,690,000円	2018年3 月26日- 29日	東京	<p>日本社会を構成する人々の中には、言語・文化の狭間に生き、アイデンティティの問題に直面したり、学習や進路面で悩んでいる子どもたちが増えている。一方、日本に生まれ日本に育っている大多数の子どもは、多様なことばや文化に触れる機会が少ないと思われる。この合宿では、演劇的手法を用いて、①参加者一人ひとりが、いま足元にある多言語・多文化社会に関心を向け、多様性を尊重するマインドを持つ、②コミュニケーションし、表現し、協働することで、多様性に富む仲間との絆を深め、自己肯定感を高めながら、共に何かを創りあげることに関心を持つことをめざす。</p>	
6	ネットワークの構築と情報 収集 4,144,300円	通年	各地	<p>Aの事業に関連する国内外の研究会や会合等に参加し、ネットワークを広げるとともに、情報収集とTJF事業の広報に努める。 また、「30年目からのTJF」に向けて、スタッフが学んだり、新しいネットワークをつくれるような勉強会を実施する。</p>	

イ. ガイドライン・教材・視聴覚資料・授業案の開発や提供事業

17,096,786円

1	日本の文化と人びと紹介サイト「くりっくにっぽん」の運営 8,402,286円	通年	TJFウェブサイト	<p>「My Way Your Way」を中心にコンテンツを増やすと同時に、韓国日本語教師ネットワーク(JTA)の協力を得て、記事を使った日本語の授業実践を増やし、その実践例をサイトに掲載するほか、日本語教師向けメルマガ(日英2言語)で記事活用のヒントを提供する。これまで日英中韓4言語それぞれのウェブサイトを経営してきたが、中国語版については、より多くの読者が獲得できる微博(Weibo)にプラットフォームを移す。</p> <p>2016年度後半に、国内外の学生が「My Way Your Way」のプロセス(企画・取材・記事づくり)を体験し、日本語で発信するウェブサイト「ときめき取材記」をオープンした。2017年度は、この取り組みに参加を希望する教師を増やすことをめざし、希望者を対象とする勉強会を開催する。</p>	◆サイト運営・広報 協力:韓国日本語教師ネットワーク(JTA)
2	「外国語学習のめやす」活用の促進をめざしたウェブサイトの運営 560,000円	通年	TJFウェブサイト	<p>マスターティーチャーや「めやす」的实践にチャレンジした教師、ウォーミングアップ研修の参加者などを中心に、「めやす」を活用した授業案の掲載を継続する。</p>	
3	『好朋友』使用校への教材・資料の提供 6,006,200円	通年	中国国内5地域	<p>『好朋友』を使った日本語の授業に長く取り組んでいる学校内に日本文化を体験したり理解を深めるための「好朋友日本文化体験の場」をつくる。設備(ハード)は学校が用意し、使用する教材・教具の寄贈と地域在住の日本人とのネットワークづくりなどのソフトはTJFが行う。日本語を学習している生徒だけでなく、校内の他の生徒や、周辺地域の教師、生徒も利用できるようにする。拠点校は全国5校、同一地域に1校を原則とする。</p>	助成:(公財)三菱UFJ国際財団 協力:中国各地の日本国総領事館
4	ネットワークの構築と情報収集 2,128,300円			<p>この事業に関連する国内外の研究会や会合等に参加し、ネットワークを広げるとともに、情報収集とTJF事業の広報に努める。</p>	

ウ. 互いのことばを学ぶ国内外の児童及び青少年並びに教育関係者の交流事業					19,562,010円
1	日韓・中高校生の交流プログラムの実施 4,357,800円	8月6-11日	韓国・ソウル市	日本で韓国語を学ぶ中高校生と韓国で日本語を学ぶ中高校生の交流プログラムの第6回を実施する。日韓ともに全国の中高校生を対象に募集する。定員を2016年度より2名ずつ増やし、各20名を選考する。韓国側はこれまで応募のなかった地域(全羅北道、全羅南道、済州島など)に重点的に広報していく。会場はこれまで同様ソウル市内のユースホステルを予定している。 プログラム期間中は、ダンス創作活動、買い物活動など、中高校生が関心をもつ活動を行う。日本側参加者は往復国際航空運賃、宿泊費など実施費用の一部を負担する。	企画・共催:(財)秀林文化財団 共同実施:秀林外語専門学校、韓国日本語教育研究会 助成:(公財)双日国際交流財団(申請中)、国際交流基金ソウル日本文化センター(申請予定) 協力:高等学校韓国朝鮮語教育ネットワーク 輸送協力:ANA
2	隣語教育に取り組む日韓の高等学校校長交流プログラムの実施 1,978,080円	8月5-9日	韓国・ソウル市	東京と神奈川の韓国教育院の協力を得て、韓国語教育を実施している中高校の管理職を韓国ソウルに派遣するプログラムの3回目を行う。2016年度は、首都圏(東京、神奈川、千葉、埼玉)+広島の5地域としたが、2017年度は参加者枠を増やし、地域拡大を図るとともに、日本側は管理職+国際交流担当の教員の参加を促し、学校としての取り組みにつなげていきたい。ソウルでは日本語教育を実施する高校を訪問し、教師・生徒と懇談するとともに、韓国各地の日本語教育実施校の管理職、日本語教師との交流会を通じ、学校間交流の実現のきっかけづくりをする。	共催:東京韓国教育院、神奈川韓国総合教育院、国際交流基金ソウル日本文化センター(一部共催) 輸送協力:ANA
3	日露教師・生徒交流プログラムの実施 11,361,130円	9月11-19日	青森市、八王子市ほか	ロシア(モスクワ、ノボシビルスク、ペルミ、サンクトペテルブルクの4地域)の中高校、日本語教師と日本語学習者を招聘し、日本の地方やロシア語実施校への訪問と交流、ホームステイや日本文化体験をしてもらう。また、招聘期間中に、日本の高校ロシア語教師、ロシア語学習者を対象としたロシア語キャンプを東京で開催し、日露それぞれの教師研修、日露学習者交流を合同合宿の形で実施し、交流を深める。 ロシア側参加者は、往復国際航空運賃の一部を負担する。	助成(申請中):(一社)尚友倶楽部、(公財)東芝国際交流財団、ルースキーミール財団 輸送協力:JAL
4	ネットワークの構築と情報収集 1,865,000円			ウの事業に関連する国内外の研究会や会合等に参加し、ネットワークを広げるとともに、情報収集とTJF事業の広報に努める。	

エ. 広報事業				15,618,107円
1	TJFの事業の広報 7,135,707円	通年	TJFサイト、メールマガジン、東京ほか	<p>①事業報告書の作成 2017年度も、見てわかる事業報告書『CoReCa』を発行する。2017年度は30周年記念誌を制作するため、『CoReCa』は簡易版とする。</p> <p>②デジタル媒体を使った広報 メールマガジン(月2回発行)やウェブサイト、Facebookを通じてTJFの事業を広く発信していく。</p> <p>その他、支援者獲得をめざしたイベントを開催する。</p>
2	30周年記念誌の制作 5,025,000円	2018年1月	A4変型、カラー、100ページ程度 4000部	直近10年の事業について振り返り、プログラム変遷の背景にある考えや根底を貫く理念などを伝えるとともに、新たな10年の方向性を示す誌面とする。
3	30周年記念レセプションの実施 3,457,400円	2018年2月	東京	①TJFの事業に協力してくださった機関、団体、個人の方々に感謝する、②参加者にTJFがこれまで事業を通して訴えかけてきたメッセージを伝える、③参加者による新たなネットワークの構築を促し、TJFの理念である「であい、つながる」場となることをめざす。

※公益目的事業に係る費用(給料手当、福利厚生費、消耗品費、賃借料など)